

15. 水素炉

- ◆ 水素ガスは燃焼範囲が非常に広く、空気との混合率が4～75%になると爆発を起こす危険性がありますので、水素炉内での混合率には十分に気をつけて下さい。
- ◆ 発火点は527℃（500℃のガソリンと同程度）で自然発火はしにくいですが、着火エネルギーが小さいため、水素炉の作業場所においては火気厳禁です。
- ◆ 水素炉から排出される水素ガスは、局所排気設備、或いは窓の外などに排気して下さい。
- ◆ 室内の換気にも十分に気をつけて下さい。
- ◆ 水素炉を使用する際には、必ず安全衛生委員長へご連絡下さい。放射線管理室に提出する実験計画書にも使用の旨を記載して下さい。

<一般事項>

- 水素ガスは、常温において無色・無味・無臭の気体です。
- 水素ガスは分子量やガス密度が小さいため、他のガスに比べると漏れやすく、拡散性が高いことから、大気中に漏れ出てもすぐに拡散します。
- 水素ガス及び高圧ガスボンベの取り扱いについては、5. ガス を参照して下さい。
- 水素炉は、炉の真中にセットされたガラスの筒の中にルツボを挿入し、ガラスの筒に水素を流しながら、加熱する構造になっています。
- ガラスの筒は変形しやすいため、取り扱いには十分に気をつけて下さい。

